

2025 年 1 月 28 日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社  
(東証プライム / 証券コード : 3762)

## システム連携における無影響確認テストの自動化をサポートする、 「SOAtest/Virtualize 2024.2」の販売を開始 TCP/UDP 連携や AI 機能強化でレガシー、組み込みからモダナイズ案件までテスト効率化

テクマトリックス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：矢井隆晴、以下「テクマトリックス」）は、米国 Parasoft Corporation（本社：米国カリフォルニア州、最高経営責任者：Elizabeth Kolawa、以下「Parasoft 社」）が開発した API テストの自動化とサービス仮想化を 1 ツールで実現する「SOAtest/Virtualize 2024.2」の販売を 2025 年 1 月 28 日より開始します。

昨今、システム間のデータ連携に API が利用される機会が増え、システムの安定稼動のために API の品質維持が益々重要視されるようになりました。定期的なセキュリティパッチの適用やバージョンアップに伴う無影響確認テストにおいて、REST API や MQ、JMS、TCP、UDP、SFTP など、古くから利用されているレガシープロトコルも含めた API のテストを効率化するには、テスト自動化は欠かせません。

SOAtest/Virtualize は、システム間連携に欠かせない API の開発者と利用者に向けて、テストの自動化とテスト環境の仮想化（サービス仮想化）の 2 つの側面から開発の効率化をサポートします。API の開発者には、API が正しく機能することを検証するために、API のテストクライアントを自動生成し、API の単機能テストやシナリオテストの実行を自動化する機能を提供します。API を利用する側のアプリケーションの開発者には、API から取得するデータを利用してアプリケーションが正しく動作することを検証するために、システム間連携で用いる API を仮想化（高度なモックサーバー・スタブを自動生成）し、疑似的にデータを提供することで、いつでも、何度でも、テストを実行できる環境を提供します。

このたび販売を開始した SOAtest/Virtualize 2024.2 では、API のテスト自動化機能（SOAtest）とテスト環境の仮想化機能（Virtualize）の両方で IoT・組み込み系システム、レガシーシステムへの対応を大幅に強化しました。TCP 電文を記録した PCAP ファイルからテストクライアントおよびスタブを自動生成する機能や、UDP ソケット通信への対応により、これまで独自ツールの開発や手動でのテストが必要だったものを簡単に自動化でき、作業効率を向上させます。また LLM との連携も強化しました。テストシナリオの自動生成時に、AI がテスト間の値の引き継ぎ設定を自動化するのに加えて、実現したいテストに関する質問に対して、タイムリーに最適な回答を提示します。さらに、パラメータライズ設定の不備を検出する機能の追加や、テスト資産の保存形式にテキストでの編集が可能な YAML が追加されるなど、メンテナンス性を向上させる機能が強化され、チーム全体でテスト自動化を推進する上で、さらなるテストプロセスの簡略化が期待できます。

テクマトリックスは、Parasoft 社製品の国内総販売代理店として、システム間のデータ連携に欠かせない API の開発と API を使用するアプリケーションの開発に携わるすべてのお客様の課題解決に最適なツールとして、SOAtest/Virtualize の販売、マーケティング、ユーザーサポートなどの活動を強化してまいります。

## 【SOAtest/Virtualize 2024.2 の主な新機能・改善点】

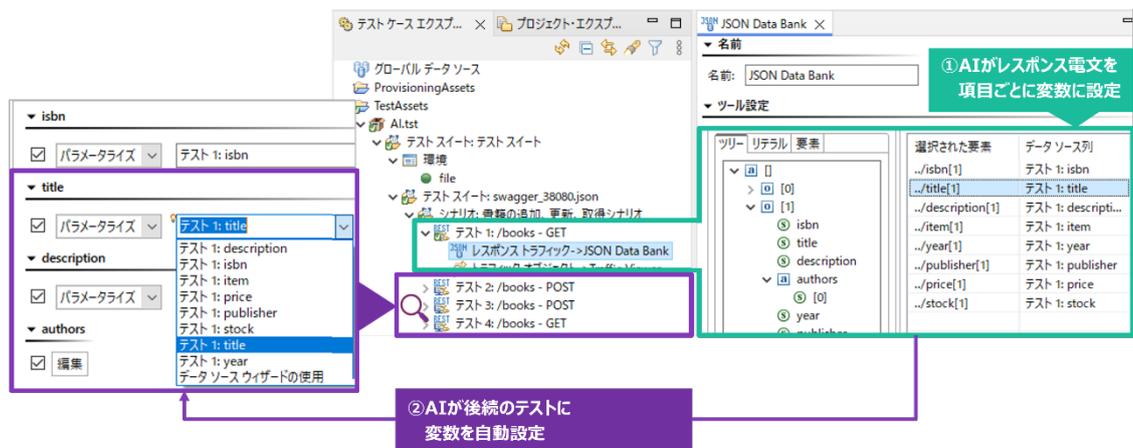
### ● LLM 連携機能の強化

#### ・ AI アシスタントがユーザーの質問に回答

SOAtest/Virtualize に、チャット形式で質問できる AI アシスタント機能が追加されました。ユーザーが実現したいテストに関する質問を入力すると、AI アシスタントが製品ドキュメントの内容から即座に最適な回答へ導きます。情報検索にかかる負担が減り、作業効率が向上します。

#### ・ AI を活用したテスト間の値の引き継ぎ設定も自動化

AI が、プロンプトに入力されたテスト要件と OpenAPI/Swagger サービス定義の内容から、API テストシナリオを自動生成する時に、テスト間の引き継ぎも自動的に設定します。これにより、テストシナリオの作成・設定における作業効率が向上します。



#### ・ ユーザーが独自に構築した LLM プロバイダーを選択可能

OpenAI や Azure OpenAI に加え、OpenAI と互換性のある LLM の利用が可能になりました。ローカル環境の LLM も選択可能なので、プライバシーを重視するプロジェクトでも LLM 連携機能を利用できるようになりました。

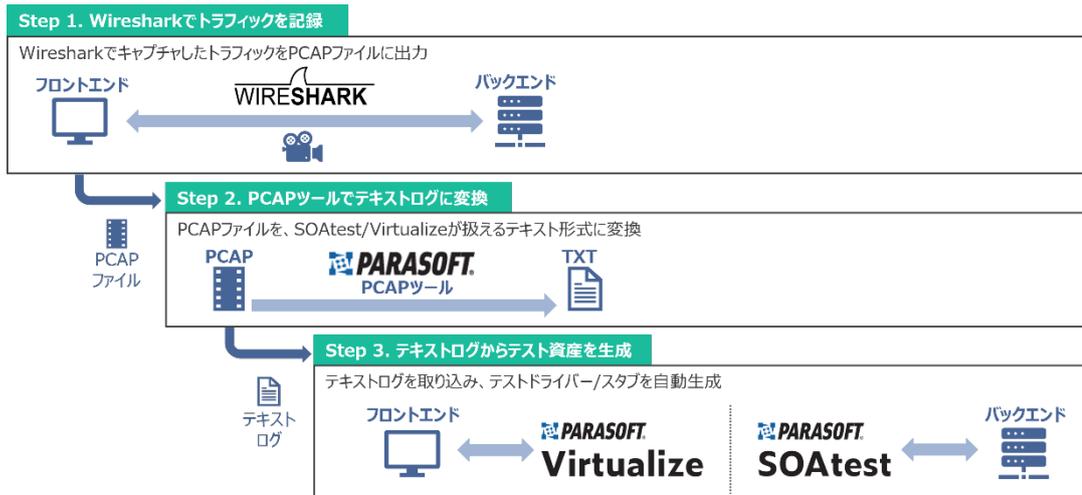
### ● IoT・組み込み系システム、レガシーシステムへの対応を大幅に強化

#### ・ UDP ソケット通信に対応

TCP ソケット通信に加え、UDP ソケット通信にも対応しました。トランスポートおよびリスナーのプロトコルに UDP を選択するだけで、テストドライバーとスタブの両方で使用できます。

#### ・ TCP 電文の記録とテスト資産の自動生成に対応

TCP 固定長電文や可変長電文などを記録した PCAP ファイルから、テストドライバーやスタブの自動生成が可能になりました。この機能強化によって、TCP 電文を用いるシステムのテスト効率が飛躍的に向上します。



● テスト資産のチーム運用・メンテナンス性を強化

・ 壊れたパラメータライズ設定の検出

CSV や Excel などのデータソースから値を設定（パラメータライズ）したテスト資産について、メンテナンス時にエラーを検出する機能が追加されました。テストを実行することなく静的にチェックできるため、メンテナンス工数の削減に貢献します。

・ テスト資産をテキストでメンテナンス可能

テスト資産の保存形式に、可読性の高いYAMLが選択可能になりました。YAMLで保存することで、テスト資産のメンテナンスをGUI上で行うことなく、テキストで編集できるため、作業時間の短縮が期待できます。また、各メンバーが加えた変更内容をバージョン管理ツールで今まで以上に容易に確認できるようになりました。

● その他テクノロジー対応を強化

・ GraphQL 対応の強化 - SDL からスタブを自動生成

テストドライバーの自動生成機能に加え、スタブも自動生成するようになりました。GraphQL の

スキーマ定義である SDL から、テストドライバーとスタブを自動生成できます。近年利用の進む GraphQL のテスト資産作成がさらに容易になりました。

- **Web アクセシビリティの検証機能の追加**

Web ブラウザーコンテンツが、最新の Web アクセシビリティガイドライン（WCAG 2.2 や Section 508）へ準拠しているか検証する機能が追加されました。4 段階の重要度に分類してレポートされるため、優先して取り組むべき項目が明確になります。さらに、詳細レポートで違反している箇所や具体的な改善方法を確認できます。



## 【SOAtest/Virtualize の稼働環境】

- Windows 64bit  
Windows 10、Windows 11、Windows Server 2022
- Linux 64bit  
GTK+ 3.20 以降
- macOS 64bit  
macOS 12 (Monterey) 以降

製品の詳細は Web ページをご確認ください。

URL : [https://www.techmatrix.co.jp/product/soatest\\_virtualize/](https://www.techmatrix.co.jp/product/soatest_virtualize/)

## 【SOAtest/Virtualize の販売開始日】

- 販売開始日 : 2025 年 1 月 28 日
- 出荷開始日 : 2025 年 1 月 28 日

2025 年 1 月 28 日において、保守サービスをご契約いただいている SOAtest/Virtualize のユーザー様には、「SOAtest/Virtualize 2024.2」バージョンアップ製品を無償でご提供します。

# Press Release

## ■テクマトリックス株式会社について

テクマトリックス（東証プライム：3762）は、お客様のニーズに沿った最適な IT インフラと IT ライフサイクルをワンストップで提供する「情報基盤事業」、蓄積された業務ノウハウを実装したアプリケーションの提供により顧客の課題解決を実現する「アプリケーション・サービス事業」、「医療情報をみんなの手に。そして、未来へ。」をテーマに健康な社会を支える医療情報インフラの構築に取り組む「医療システム事業」の3事業を展開し、顧客企業のビジネスモデル変革と競争力の強化をサポートしています。

詳細は Web サイト：<https://www.techmatrix.co.jp/> をご参照ください。

## ■Parasoft Corporation について

Parasoft 社は、30 年以上にわたり、ソフトウェアのバグがアプリケーションに混入する原因と仕組みを研究し、数々のソリューションを提供してきました。Parasoft 社のソリューションは、ソフトウェア開発ライフサイクルにおける継続可能なプロセスとして、品質改善活動を支援し、頑強なソースコードの実装、無駄がなく機能性の高いシステムの構築、安定したビジネスプロセスの実現を可能とします。数々の賞を受賞した Parasoft 社製品は、長年の研究成果と経験から得られたノウハウを自動化し、エンタープライズシステムから組み込みソフトウェアまで、どのようなタイプのソフトウェア開発においても、生産性向上と品質改善を実現します。Parasoft 社のコンサルティングサービスは、ツールでは解決できない問題の解決や開発プロセスの改善など、Parasoft 社の 30 年以上の経験を直接お客様に提供し、お客様の改善活動を支援します。

詳細は Web サイト：<https://www.parasoft.com/> をご参照ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

テクマトリックス株式会社

ソフトウェアエンジニアリング事業部 SOAtest/Virtualize 担当

E-mail：[parasoft-info@techmatrix.co.jp](mailto:parasoft-info@techmatrix.co.jp)

TEL：03-4405-7853

\*本原稿に記載されている社名及び製品名等は、各社の商標または登録商標です。